

授業科目区分		科目名		単 位	科目コード	開講時期	履 修 条 件		
専門教育課程 専門基礎科目 専門基礎		心理情報学実験・演習 Practice of Psychology and Informa tion Science II		2	9517-01	4期(後学期)	修学規程第5条別表第2を参照		
担当教員名		研究室	内線電話番号	電子メールID			オフィスアワー		
授 業 科 目 の 学 習 教 育 目 標									
キーワード		学習教育目標							
1	検査の信頼性と妥当性	人間の心理的な差違(個人差)を表す, 性格, 知能は, 多くの要素から構成されており, 多面的な評価が必要であることから, さまざまな検査法が提案されている. 本講では, それらの理論と, 代表的な心理学的測定方法を, 演習を通して学ぶ. また測定方法自体の妥当性評価, 及び, 正確な測定を行うための実施方法についても学ぶ. これらを通じて, 自分自身の心理的な特質についても理解を深めることも目標とする.							
2	知能検査								
3	性格検査								
4	神経心理学的検査								
5	尺度構成法								
授業の概要および学習上の助言									
本講は大きく以下のような2つのセクションから成っている。									
講義(第1-2週、第10週、第15-16週) 心理学的研究方法における検査法の概論, パーソナリティ心理学および心理検査の概論, その他について講義する. オリエンテーション, レポート・演習の講評, 自己点検授業もここに含まれる.									
演習・実習 a) 尺度構成法(第3-5週) 尺度作成に関わる演習を通して尺度構成法の実際を学ぶ. b) 心理検査(第6-9週、第11-14週) 各種の心理検査の概要を, 実習を通して学ぶ. また信頼性と妥当性の評価についても演習を通して学ぶ.									
のb)の「心理検査」では, 受講者は4班に分かれ, まず前半の4つの課題を週に1つずつ順番に受講し, 続いて後半の4つの課題を順番に受講する. 各課題終了後, 次回の授業までにレポートを提出する.									
なお, 本講では教科書は指定しない. 適時資料を配布する.									
【教科書および参考書・リザーブドブック】									
教科書: 指定なし 参考書: 心理尺度のつくり方[北大路書房]、心理学研究方法 データ収集・分析から論文作成まで[サイエンス社] リザーブドブック: 心理学マニュアル 質問紙法[北大路書房]、心理学実験・研究レポートの書き方[北大路書房]、心理アセスメントハンドブック 第2版[西村書店]									
履修に必要な予備知識や技能									
本講は実習や演習が中心となるものであるため, 心理情報学科以外の学生の履修は認めない. また実習・演習を円滑に進行するため, 受講者には欠席・遅刻しないことはもとより, 積極的に授業に参加することが求められる.									
学科教育目標 (記号表記)		学生が達成すべき行動目標							
K,N		信頼性、妥当性という観点から、心理検査の適切性を判断することができる							
K,N		授業で採り上げた心理検査について、その理論的背景と実施方法を理解し、実施することができる							
J,K,N		心理検査の結果を報告書にまとめることができる							
P		心理検査の結果から、自らの心理的特質を知ることができる							
A,B		心理検査の管理と報告書の取り扱いに関する倫理的感覚を身につけることができる							
達 成 度 評 価									
評価方法		試 験	クイズ 小テスト	レポ-ト	成果発表 (口頭・実技)	作 品	ポ-トフォリオ	その他	合 計
指標と評価割合									
総合評価割合		0	10	80	0	0	0	10	100
総合力 指標	知識を取り込む力	0	5	32	0	0	0	0	37
	思考・推論・創造する力	0	5	32	0	0	0	0	37
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表・表現・伝達する力	0	0	16	0	0	0	0	16
	学習に取組む姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0	10	10

総合力指標で示す数値内訳は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

## 評価の要点

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点
試験		
クイズ 小テスト	レ	第1-2週の講義および第3-5週の尺度構成法の授業の内容について、必要な知識や理解の確認のために小テストを実施する（1回）
レポート	レ レ レ レ	それぞれの課題について提出されたレポートを評価する（計8回）
成果発表 （口頭・実技）		
作品		
ポートフォリオ		
その他	レ	出欠席や遅刻の状況、期限を遵守したレポートの提出状況、検査用具・手引き等の返却・管理の状況などで評価する

## 具体的な達成の目安

理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
検査法およびパーソナリティ心理学の概要をわかりやすく説明することができる。実施した心理検査の理論的背景および概要を簡潔に説明することができる。また倫理的配慮に留意しながら正確に心理検査を実施し、その実施方法や結果の見方についても、実習の経験を踏まえて特徴を説明することができる。	検査法およびパーソナリティ心理学の概要を理解している。実施した心理検査の理論的背景および概要を理解している。また心理検査を扱う上での倫理的配慮に留意しながら実習を行い、実施方法や結果の見方についてもその特徴を理解できる。

## 授業明細表

## C L I P 学習プロセスについて

一般に、授業あるいは課外での学習では：「知識などを取り込む」「知識などをいろいろな角度から、場合によってはチーム活動として、考え、推論し、創造する」「修得した内容を表現、発表、伝達する」「総合的に評価を受ける、Good Work!」：のようなプロセス（一部あるいは全体）を繰り返し行いながら、応用力のある知識やスキルを身につけていくことが重要です。このような学習プロセスを大事に行ってください。

回数 日付	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1-3 /	オリエンテーション (運営方法・学習目標・成績評価などの説明, グループ分け)  心理学的研究法における検査法 他	講義と質疑	復習: 講義内容の復習	60
4-6 /	パーソナリティ心理学の概論 心理検査法の概論 心理検査を扱う際の倫理的配慮 他	講義と質疑	復習: 講義内容の復習	60
7-9 /	尺度構成法 3週にわたって心理尺度を作る第1回目	講義・演習と質疑	復習および予習: その日の作業を見直しておく.	30
10-12 /	尺度構成法 3週にわたって心理尺度を作る第2回目	講義・演習と質疑	復習: その日の作業を見直しておく.	60
13-15 /	尺度構成法 3週にわたって心理尺度を作る第3回目  第15回の授業で小テストを実施する	講義・演習と質疑 小テスト	予習: 尺度構成法および第1・2週に実施した講義内容もあわせて見直し, 知識を確認しておく. 復習: 尺度構成法全体の復習をしておく.	90 60
16-18 /	検査の信頼性と妥当性 検査の信頼性と妥当性の検討方法	講義・演習と質疑 演習ではパソコンを使用するため, 各自パソコンを持参すること.	課題: 講義内容を見直し, 知識を確認しながらレポートを作成する	120
19-21 /	性格検査 質問紙法 日本版MAS (顕性不安検査)	講義・演習と質疑	課題: 講義内容を見直し, 知識を確認しながらレポートを作成する	120
22-24 /	知能検査 田中ビネー式知能検査V	講義・演習と質疑	課題: 講義内容を見直し, 知識を確認しながらレポートを作成する	120
25-27 /	性格検査 作業検査法 内田クレペリン精神検査	講義・演習と質疑 検査結果の整理のため 青色と赤色の筆記用具ならびに定規を持参すること.	課題: 講義内容を見直し, 知識を確認しながらレポートを作成する	120
28-30 /	前半のまとめ 授業およびレポートの講評, 授業内容の補足 他	講義と質疑		
31-33 /	神経心理学的検査 ベントン視覚記憶検査	講義・演習と質疑	課題: 講義内容を見直し, 知識を確認しながらレポートを作成する	120
34-36 /	検査の信頼性と妥当性 文献の中での使われ方を知る	講義と質疑	予習: 尺度構成法と検査の信頼性と妥当性 で学習した知識を確認しておくこと. 課題: 講義内容を見直し, 知識を確認しながらレポートを作成する	120
37-39 /	性格検査 質問紙法 TEG (東大式エゴグラム)	講義・演習と質疑	課題: 講義内容を見直し, 知識を確認しながらレポートを作成する	120
40-42 /	性格検査 投影法 文章完成法 (SCT)	講義・演習と質疑	課題: 講義内容を見直し, 知識を確認しながらレポートを作成する	120
43-45 /	全体のまとめ 授業の講評, 授業内容の補足 他	講義と質疑		
46 /	自己点検授業	質疑応答	復習: 講義全体を通して理解が不十分であった点を復習する	60
47-51 /	学習の進捗調整のための予備授業時間	担当教員の指示に従う	担当教員の指示に従う	